

# 文化のみち榎木館 ハナズオウ

(公財)名古屋まちづくり公社 景観整備アドバイザー 野田 展葛

文化のみち榎木館は、陶磁器商として活躍した井元為三郎が、大正末期から昭和初期に建てた邸宅です。大きく区画割りされた敷地に和館、洋館、東西二棟の蔵、茶室、庭園が残されています。

建築 大正 15 年(1926)頃

指定 名古屋市指定有形文化財、景観重要建造物

春先になると玄関の左側にハナズオウ(花蘇芳)の花が咲きます。 幹に直接花をつける変わった樹木ですが、とても鮮やかな赤紫の花で春を伝えます。ハート型の葉をつけた風貌は、やや古風なイメージで文化財に指定されたこの建物によく似合います。

ハナズオウ (*Cercis chinensis*) は、中国原産のマメ科ジャケツイバラ亜科の落葉低木で、早春に咲く花が美しいためよく栽培されます。この変わった名前は「花をつける蘇芳」との意味ですが、蘇芳とは、赤紫色の染料とするインドや東南アジア原産の樹木のことです。

よく手入れされた庭園には、ハナズオウのほかにはクちなし、ハクウンボク、センダン、などの花木が迎えてくれます。建物も庭園もとても落ち着いた雰囲気を感じることが出来ます。「文化のみち榎木館」に是非お出かけ下さい。



庭園はよく手入れされています(26.4.2)



幹に鮮やかな花をつけます(26.4.2)

## お出かけは

地下鉄桜通線「高岳」下車北へ徒歩約 10 分 市バス「東片端」下車北へ徒歩 3 分

開館時間 午前 10 時～午後 5 時 観覧料 200 円 (中学生以下無料) 庭園は無料

休館日 月曜日 (祝日の場合は直後の平日) 及び 12 月 29 日～1 月 3 日

(名古屋市市東区榎木町 2-18 052-939-2850)